様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３３２０１４０

研究課題名（和文）近世琉球社会における言語運用の諸相に関する総合的研究

研究課題名（英文）The research of linguistic contacts in the early modern Ryukyu Kingdom.

研究代表者
高良　倉吉（Takara, Kurayoshi）

琉球大学・法文学部・名誉教授

研究者番号：６０２６４４７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　10,700,000円、（間接経費）　3,210,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、歴史学を中心に言語学や文学、民俗学、芸能史研究の分野を取り込み、言語運用の諸相から近世琉球社会の実態を展望することが課題であった。
研究グループを歴史班、生活・文化班、言語班の３つに分け、各班の専門領域から、近世琉球王国における言語接触、言語運用について分析を進めた。琉球、中国間の官話研究はもとより、琉球王国内の首里と周辺離島における琉球語の関係性や琉歌の伝承、またそれを媒介とした琉球芸能や民俗文化への影響もみることができた。これらを歴史学領域より総合的に考察し、単一の研究領域のみでは見出すことができない新たな視点が得られ、３年間の集大成として報告書を作成できたことが最大の成果である。

研究成果の概要（英文）：This project was the research based on history which brought in the field of linguistics, literature, folklore and performing art. Bringing the prospects of the real situation of early modern Ryukyu society from the various aspects of linguistic philosophy is the topic of the research.
The research groups have been divided into three of history team, living & culture team, and linguistic team. Each team has made an analysis on linguistic contact and linguistic philosophy of the early modern of the Ryukyu Kingdom from its special field. From the Mandarin research between Ryukyu and China we can see the relationship of the Ryukyu language between the Ryukyu Kingdom of Shuri and the surrounding islands, and the generations handing down of Okinawan poem, as well as the influence on the Ryukyu performing arts and folk culture. Through the three years, the greatest result we got was the report completed as a compilation of the researches.

研究分野：言語

科研費の分科・細目：基盤研究（B）

キーワード：琉球　言語運用　琉球王国　琉球語･琉球方言　言語接触　官話　琉歌　琉球民俗･芸能

１．研究開始当初の背景

琉球王国における「言語運用」の問題解明は、個々の研究分野で実績を積み上げてきた琉球・沖縄研究においても等閑視されてきた課題であるが、本研究と同じあるいは類似の研究が、国内外においても行われていない。

琉球王国における対外関係、国内支配、人と物の移動と文化交流の歴史像を具体的に検討するにあたって、歴史研究を中心に異分野の研究者が共同で行う学際性、総合性は本研究の大きな特徴であろう。

本研究の代表者、分担者の大半が琉球大学法文学部琉球アジア文化専攻に在職する研究者であり、日常的な研究交流も行っており、様々な共同研究を行ってきた実績がある。このことは異分野の研究者の共同研究をより実効性のあるものにし、大きな成果を上げるうえで重要な要素であり、異分野の研究者の討議を研究計画の柱の一つとする本研究の特色である。

２．研究の目的

17－19 世紀の近世琉球王国は、清国および徳川日本と従属的な国際関係を保持しつつ、首里を拠点に広大な海域に点在する島嶼群を統治する体制を維持していた。国際関係に必須な官話や福建語、当時の薩摩弁や「日本語」をどのように運用していたのか。あるいは、漂着・来航する朝鮮人や欧米船隻に対しどのように対応言語を駆使していたのか。さらには、琉球語と一括されながらも会話が通じない首里方言と宮古方言、八重山方言など言語の多様な状況にどう対応していたのか。

これらの問題を個別的・断片的に論じた成果はあるものの、全体的な視野に立ってその諸相を考究した研究は皆無である。本研究は歴史学を中心に言語学や文学、民俗学、芸能史研究などの方法も採り入れつつ、「多言語王国」としての琉球の全体像を明らかにする。

３．研究の方法

役割分担を大きく歴史分析アプローチ班（以下、歴史班）と言語分析アプローチ班（言語班）、生活・文化アプローチ班（生活・文化班）の３つに分けて組織し、各班での個別検討をふまえつつ随時横断的な研究会やワークショップを開催する。研究成果に一定の展望が得られた段階で数度にわたるシンポジウム等を開催し、研究組織に属さない研究者を交えた双方向的な討論を行う。そのような研究と討議を重ねたうえで、研究目的に沿うかたちで成果をどのように取りまとめるか、研究代表者を中心に数度の研究会を実施し、冊子体の成果報告書刊行にむけてのコンセプトを決定する。

４．研究成果

本研究は、歴史学を中心に言語学や文学、民俗学、芸能史研究の分野を取り込み、言語運用の諸相から近世琉球社会の実態を展望することが課題であった。

研究グループを歴史班、生活・文化班、言語班の３つに分け、各班の専門領域から、近世琉球王国における言語接触、言語運用について分析を進めた。琉球、中国間の官話研究はもとより、琉球王国内の首里と周辺離島における琉球語の関係性や琉歌の伝承、またそれを媒介とした琉球芸能や民俗文化への影響もみることができた。これらを歴史学領域より総合的に考察し、単一の研究領域のみでは見出すことができない新たな視点が得られ、３年間の集大成として報告書を作成できたことが最大の成果である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

＊研究分担者の人数が多いため、全ての研究業績を載せることはせず、一部割愛し、主な業績を以下に記載する。

〔雑誌論文〕（計　36　件）

【平成 25 年度研究実績】

① 高良倉吉、「首里王府・蔵元と与那国島」、『「与那国町史」歴史編』第３巻、2013、184－198 頁、査読無

② 赤嶺守、「歴代宝案編集事業と档案史料」、『第十回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』、2014、63－89 頁、査読有

③ 豊見山和行、「島津氏の琉球侵略と琉球海域の変容」、荒野泰典他編『日本の対外関係５　地球的世界の成立』吉川弘文館、2013、267－276 頁、ISBN：9784642017053、査読無

④ 赤嶺政信、「男系原理と女性の霊威」、喜納育江編著『沖縄ジェンダー学―「伝統」へのアプローチ―』、2014、35－55 頁、ISBN：9784272350513、査読無

⑤ 大城學、「琉球芸能における女形」、喜納育江編著『沖縄ジェンダー学―「伝統」へのアプローチ―』、2014、81－115 頁、ISBN：9784272350513、査読無

⑥ 狩俣繁久、「沖縄県名護市幸喜方言の擬声擬態語―和琉辞典のこころみ」、『琉球の方言』第 38 号、2014、93－155 頁、査読有

⑦ 瀬戸口律子、「琉球官話課本≪白姓官話≫与≪百姓話≫的比較」、『大東文化大学院外国語学研究科紀要』、2014、11－15 頁、査読有

⑧ 前城淳子、「八重山に伝えられた琉歌『家

訓歌語』について」、『琉球アジア社会文化研究』第 16 号、2013、1－38 頁、http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/28334、査読無

⑨ 西岡敏、「琉球方言の敬語研究の展望」、『沖縄文化』114 巻、2013、33－47 頁、https://ndlopac.ndl.go.jp/F/MU32T2KND7K1KPVTI15SE3KF9EQM714M93BJFHDUPAF6T6VRH2-52002?func=find-c&ccl_term=001%20%3D%20024930806&adjacent=N&x=0&y=0&con_lng=jpn&pds_handle=&pds_handle= 、査読有

⑩ 石崎博志、「正音資料の特質」、『琉球大学法文学部紀要「日本東洋文化論集」』第 20 号、2014、1－30 頁、査読無

⑪ 金城ひろみ、「琉球人が学んだ中国語―『琉球官話集』と『廣應官話』を比較して―」、『研究成果報告書「近世琉球社会における言語運用の諸相に関する総合的研究」』（課題番号 23320140）、2014、131－137 頁、査読無

【平成 24 年度研究実績】

⑫ 高良倉吉、「渡名喜島―大地（ウフジ）と離（ハナレ）の琉球史②」、『季刊沖縄』42 号、2012、18－20 頁、査読無

⑬ 高良倉吉、「グレゴリー・スミッツ著・渡辺美季訳「琉球王国の自画像」」、『日本歴史』777 号、2012、116－118、査読有、https://ndlopac.ndl.go.jp/F/SK2USUFVEL32CYI58RMLT7H62EK3BB4REFR94LMFCP57B2C486-12648?func=find-c&ccl_term=001%20%3D%20024202690&adjacent=N&x=0&y=0&con_lng=jpn&pds_handle=&pds_handle

⑭ 赤嶺政信、「南島から柳田國男を読む―祖霊信仰論に焦点を当てて―」、『日本民俗学』271 号、2012、64－90、査読有

⑮ 豊見山和行、「前近代琉球の災害史について―環境社会史の視座から―」、『沖縄防災環境学会編論文集　防災と環境』、2012、1－4、査読無

⑯ 狩俣繁久、「ニコライ・A・ネフスキーの言語研究―ネフスキー資料の言語的側面あるいは言語学的価値―」、『ニコライ・A・ネフスキー生誕 120 年記念シンポジウム報告書』、2012、22－27、査読無

⑰ 大城學、「組踊台本は如何にして筆写されてきたのか」、『日本東洋文化論集第 19 号』、2013、55－81、http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/26015、査読無

⑱ 石崎博志、「アグノエルの記した久高方言」、『琉球の方言』第 37 号、2013、143－161、査読有

⑲ 西岡敏、「「国頭語」概説」、『琉球諸語の復興』、2013、43－63、査読無

⑳ 赤嶺守、「戦後中華民国における対琉球政策―1945 年～1972 年の琉球帰属問題を中心に―」、『日本東洋文化論集第 19 号』、2013、29－54、http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/26042、査読無

㉑ 前城淳子、「琉球の恋歌」、『知の源泉～やわらかい南の学と思想５』2013、38－51、ISBN-10: 4871272087、査読無

㉒ 金城ひろみ、「琉球官話課本における語彙の分類方法―『琉球官話集』「五字官話」を例に―」、『日本東洋文化論集第 19 号』、2013、149－161、http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/26038、査読無

【平成 23 年度研究実績】

㉓ 高良倉吉、「両先島役人の上国に見る首里城」、『日本東洋文化論集第 18 号』、2012、61－67 頁、査読無、http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/24916、

㉔ 高良倉吉、「古琉球の西原」、『西原町史・通史編１』、2011、111－135 頁、査読無

㉕ 高良倉吉、「久高島―大地（ウフジ）と離（ハナレ）の琉球史①」、『季刊沖縄』41 号、2011、17－19 頁、査読無

㉖ 赤嶺守、「≪條款官話≫初探」、『盛清社会與揚州研究』、2011、117－129 頁、査読有

㉗ 赤嶺守、「県会成立以前の沖縄（明治五年―四一年）」、『沖縄県議会史第１巻通史編１』、2012、13－62 頁、査読無

㉘ 豊見山和行、「船と琉球史―近世の琉球船をめぐる諸相―」、『船の文化からみた東アジア諸国の位相』、2012、23－35 頁、査読無

㉙ 赤嶺政信、「歴史のなかの民俗社会―久高島の社会組織と祭祀的世界の研究（要旨）」、『日本東洋文化論集第 18 号』、2012、1－7 頁、http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/24934、査読無

㉚ 大城學、「組踊へのいざない」、『普遍への牽引力～やわらかい南の学と思想４』、2012、22－37 頁、ISBN-10: 4871272044、査読無

㉛ 大城學、「組踊にみる道行芸」、『琉球・沖縄の芸能―その継承と世界へ拓く研究』、2012、179－226 頁、査読無

㉜ 大城學、「琉球箏曲興陽会の沿革」、『琉球箏曲興陽会創立七十周年記念誌』、2011、101－139 頁、査読無

㉝ 狩俣繁久、「琉球列島における言語接触研究のためのおぼえがき」、『琉球の方言』第 35 号、2012、9－28 頁、査読有、https://ndlopac.ndl.go.jp/F/VFXAKJUGI4JEEVHGNP49X4L3DKB6FRRR792SIX69ATT8K9YJTQ-12593?func=find-c&ccl_term=001%20%3D%20023744615&adjacent=N&x=0&y=0&con_lng=jpn&pds_handle=&pds_handle=

㉞ 西岡敏、「近世琉球資料からの方言再話

―　　首里方言による羽衣伝説を例として―」、『奄美沖縄民間文芸学』11 巻、2012、1　―　15　頁　、https://ndlopac.ndl.go.jp/F/I6DNPNLSPM419MEKJ9USIAVDNQMLRD7R5DXDGNVL84RDG1QH6H-32055?func=find-c&ccl_term=001%20%3D%20023817094&adjacent=N&x=0&y=0&con_lng=jpn&pds_handle=&pds_handle=、査読無

㉟ 石崎博志、「『琉球入學見聞録』のハ行音とカ行音」、『日本語の研究』７（４）、2011、15 ― 29 頁、査読有、http://ci.nii.ac.jp/els/110009436722.pdf?id=ART0009913461&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1403511521&cp=

㊱ 金城ひろみ、「琉球・沖縄と「中国語」」、『普遍への牽引力～やわらかい南の学と思想４』、2012、10－21 頁、ISBN-10: 4871272044、査読無

〔学会発表〕（計　13　件）

【平成 25 年度研究実績】

① 豊見山和行、「古琉球・近世琉球期における宮古社会の諸相」、沖縄県立芸術大学附属研究所文化講座『宮古の歴史と文化』、2013 年 5 月 1 日、沖縄県立芸術大学

② 瀬戸口律子、「談≪廣應官話≫的編者以及若干問題」、中琉歴史関係国際学術会議、2013 年 11 月 30 日、台湾中央研究院

③ 大城學、「組踊の祖・玉城朝薫とその作品」、沖縄学講座第２回、2013 年 6 月 15 日、浦添市図書館

④ 金城ひろみ、「琉球官話課本之詞彙比較―以≪琉球官話集≫和≪廣應官話≫為例」、現代漢語的歴史研究工作坊、2013 年 7 月 7 日、琉球大学法文学部

【平成 24 年度研究実績】

⑤ 瀬戸口律子、「《白姓官話》与《百姓話》之比較」、第 16 届中国言語学会、2012 年 8 月 22 日、中国（雲南省）

⑥ 大城學、「三弦　海を越えて―アジアから日本へ―「日本・アジアの三弦」、東京芸術劇場コンサートホール、2012 年 10 月 11 日、東京

⑦ 赤嶺政信、「The Development of Rituals for Ancestors in Okinawa-Taking Account of the State System in Folk Culture studies-」、International Okinawan Conference、2012 年 11 月 2 日

【平成 23 年度研究実績】

⑧ 赤嶺政信、「柳田國男の民俗学と沖縄」、第 859 回日本民俗学会談話会「柳田國男の超克と継承―没後 50 年の今―」、2011 年 11 月 13 日、成城大学

⑨ 大城學、「筝の伝来と普及」、伝統組踊保存会、2011 年 6 月 27 日、浦添市・結の街

⑩ 大城學、「労働移動と芸能」、ハワイ大学沖縄研究所、2012 年 3 月 2 日、ハワイ大学

⑪ 瀬戸口律子、「近世琉球社会における言語状況について」、大東文化大学語学教育研究所、2011 年 12 月 5 日、同大語学教育研究所

⑫ 石崎博志、「『琉球入學見聞録』のハ行音とカ行音」、沖縄文化協会、2011 年 7 月 17 日、琉球大学

⑬ 金城ひろみ、「琉球官話課本の語彙分類に関する考察―『琉球官話集』を例に」、第 13 回中琉歴史関係国際学術会議、2011 年 11 月 26 日、中国・福建師範大学

〔図書〕（計　7　件）

【平成 25 年度研究実績】

① 赤嶺守、『華夷秩序と琉球王国―陳捷先教授中琉歴史関係論文集―』、榕樹書林、2014、全 257 頁、ISBN-10: 4898051758

② 赤嶺政信、『歴史のなかの久高島―家・門中と祭祀世界―』、慶友社、2014、全 454 頁、ISBN-10: 487449143X

【平成 24 年度研究実績】

③ 高良倉吉、『沖縄の世界遺産―琉球王国への誘い』、JTB パブリッシング、2012、全 143 頁、ISBN-10: 4533089763

④ 赤嶺守、『中国と琉球　人の移動を探る―明清時代を中心としたデータの構築と研究』、彩流社、2013、全 592 頁、ISBN-10: 4779116783

⑤ 瀬戸口律子、『高校版　中国語はじめました』、駿河台出版社、2012、全 98 頁、ISBN978-4-411-03076-4 C1087

【平成 23 年度研究実績】

⑥ 高良倉吉、『琉球の時代―大いなる歴史像を求めて』、筑摩書房、2012、全 319 頁、ISBN:978-4-480-09443-8

⑦ 高良倉吉、『琉球王国史の探求』、榕樹書林、2011、全 278 頁、ISBN-10: 4898051561

・

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

高良倉吉（TAKARA Kurayoshi）
琉球大学・法文学部・名誉教授
研究者番号：60264470

(2)研究分担者

・赤嶺守　（AKAMINE Mamoru）
琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：20212417

・豊見山和行　（TOMIYAMA Kazuyuki）

琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：40211403

・赤嶺政信　(AKAMINE Masanobu)
琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：40192893

・大城學　(OSHIRO Manabu)
琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：90572058

・狩俣繁久　(KARIMATA Shigehisa)
琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：50224712

・瀬戸口律子　(SETOGUCHI Ritsuko)
大東文化大学・外国語学部・教授
研究者番号：90054858

・前城淳子　(MAESHIRO Junko)
琉球大学・法文学部・准教授
研究者番号：90336355

・西岡敏　(NISHIOKA Satoshi)
沖縄国際大学・総合文化学部・教授
研究者番号：30389613

・石崎博志　(ISHIZAKI Hiroshi)
琉球大学・法文学部・准教授
研究者番号：30301394

・金城ひろみ　(KINJO Hiromi)
琉球大学・法文学部・准教授
研究者番号：30548219